

「吉塚・玄海・地島ゆりの樹幼稚園が1本の素晴らしい大樹に育つように、 子ども達が豊かな成長が出来るように心と知恵と力を貸して下さい」



— 1粒の花の種が実を結ぶように…確実な実りをめざして —

学校法人 高杉学園 学園長 高杉美稚子

私の一番好きな花、サクラも満開、春爛漫の季節の到来です。いよいよ平成20年度の始まりです。今日ここに新しいゆりの樹幼稚園の子ども達、保護者の皆さん、スタッフを迎えて、新メンバーで新年度が、「新生ゆりの樹幼稚園」がスタート出来る事を心よりうれしく思い、今年はこの園児たちとめぐり合い、保護者の方と出会い、このメンバーである必要があるって、この素晴らしい、教育の場での仲間が今、ここにめぐり合ったことに心から感謝致します。

平成元年生まれの赤ちゃんも成人を迎える年となりました。時の流れの速さを感じずにはいられませんが、「過去の後悔や、未来の不安に振り回されず『今ここに生きる』事に徹する」ことができれば、素晴らしい実りがやがてやってくると信じています。今年度は新たな組織での出発となります。心配なことがたくさんあるかもしれません。さまざまな予期せぬ出来事が待ち構えているかもしれません。

そして、同時にその苦しさ、つらさを逆にワクワクドキドキの心で、楽しむことが出来れば、そんな心意気で望むことが出来れば、園生活が、毎日がそして、人生が楽しくなるのではないかと思います。そのため必要なことを考えてみたいと思います。

1. 困難なことをさけない

人生で安易な道、安易な道と苦労を避けてお気楽に生きることもできます。しかし究極のところ、安易な道は、幸福に至らないのです。

惨めさや、辛さ、悲しさ、苦しさを避けて生きている限り、本当の人生の達成感を得ることは出来ないです。たとえ、一生が困難な労苦と勤労であったとしても、それでもそれが尊きものだと思えることが幸福です。毎日の小さな積み重ね、「なあーーんだこんなこと」と思うことを少しづつ続けるという地味な努力なしに人生の幸福は得られないのです。子育ても同じです。

2. 結果ではなくプロセスを楽しむこと

素晴らしい生活を送る秘訣というのは、わかりきった地味な努力をし続けること以外にありません。そのプロセスにこそ、喜びと楽しみを見出す人間になることです。山に登れば、困難にあうのが当たり前です。困難を楽しめばたやすく上れるように感じるでしょう。

人生にどんな労苦と勤労があったとしても、それがどのように自分を成長させてくれるか、楽しみに受け止める事が出来れば、労苦と勤労こそが人生の味付けであり、人間を深く、豊かにさせてくれるものです。人生は、味わいながら、ゆっくりと心のゆとりをもって過ごしたいものです

3. 自分に素直でいること

過去の自分を否定することなく、惨めに感じることも、つらいことを、悲しい、苦しいことも自分の心で十分に感じた上で、自分の中に受け止め、心を少しでも軽くして生きることが人生を幸福に生き抜くためには大切です。そのために、これから日々、行動し、生き生きしているために必要なことは、自分に素直でいることです。素直にいる為には自分の感情に気づくことです。その自分の感情を知る為には、惨めな、辛い、悲しい、苦しい体験が必要なのです。惨めさや苦しさや、悲しさ、苦しさを味わえないことはまず感性がない、そのことを感じることも出来ない人です。だから、惨めな、辛い、悲しい、苦しい体験を排除してはいけないのです。



4、感謝の心をもつこと

たとえ、苦労があって惨めだと感じたとしても、まずそんな自分を感じられたこと、その感情がもてたことを感謝しましょう。今ここに自分がいる事に感謝することから始めましょう。幸せは誰かに幸せにしてもらうものではなく、自分で感じるものです。だから感性教育が必要なのです。自分が幸せに感じている人間が幸せであり、自分が幸せだと感じられない人が不幸なだけです。持っているものより持っていないものが気になる人間は不幸です。どんなに与えられても感謝する心がない人間は不幸であると私は感じます。

5、フリをしないで自分の本当の人生を輝かせること。

人の承認ばかりを求めていると、素直な自分ではなく、人に承認をもらう為だけに違う自分を演じるようになります。もちろん、人生は舞台であるという言葉もありますので、本当の自分を知っていて、尚且つ、自分が自分である為に、一生を演じきれば、それはそれでその人がそのことを自分で決めたのだから素晴らしい一生です。でも人に気に入られたい、認められたいだけで演じ続けると、やがて、本当の自分が何なのかわからなくなり、自分の存在が透明になります。そしてウツになり、リストカットにいたるのです。

フリをせず、自分に素直に生きることができれば、自分の人生を選択、決定できるようになります。自分で答えを出すことが出来、人の承認を求めなくても「私は私」でいられるようになります。そして自分の人生に責任が取れるのです。だから他人の目を気にして、フリをして、自分の人生、他人がどう思うかで動かないことです。自分の人生を自分のシナリオで自分の足で歩けば、自ら輝いていることが出来るのです。

自分の人生が生き生きしている為に必要な事は、人がどう思うかに振り回されず、自分自身が答えを出し、自分で輝くことです。自分が苦しむことを望まないならば、誰も苦しめることは出来ないのです。苦しめられたと思うから苦しむのです。苦しみ、怖い、情けないと嘆いている人とそうでない人と体験が違うのではありません。同じ体験をして他人が苦しんでないのに、自分が苦しんでいる時は自分の内面が輝いていないからだけにすぎないです。

「新生ゆりの樹幼稚園」が、やがて、4分の1、2分の1成人式を経て そして20歳の誕生日、成人式を迎える頃には、どんなときも自分達の感情に気づき、素直、正直でいる事ができた、困難を避けないできた、その困難を楽しむことが出来た、感謝することが出来た、あの時の体験があったから今輝いていることが出来ると、その歴史に幸福感を持って振り返りたいと願っています。その為にも、困難なことこそ、避けないで、チャレンジしていきたいと思います。どんな体験にも不必要的体験はない、全ては、人が成長するためには必要だからそのことが自分におきているのです。そんな思いを込めて『新生ゆりの樹幼稚園』の新たな出発に向かっての新しい一歩を確実に踏み出したいと考えています。

幼稚園でもっとも大切なことは、子ども達、保護者の方、職員の教育と成長です。このことがなくては、教育の現場とはいえません。子どもと共に育つことが大切です。子どもの成長に負けない大人でいたいものです。その為には、「ゆりの樹幼稚園」の教育方針をもう一度、心に刻んで頂くことが大切です。だからこそ、ゆりの樹幼稚園の教育があるのです。新年度にあたり、今一度教育方針の確認をして頂きたいと思います。そしてしっかり理解していただき、子ども達のために手を取り合って、心を一つにして歩んでいきましょう。小さな一歩から・・・



★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「**真の自立への道**」(個別性と共感)
- 2に「**知ることの喜びを与えること**」(自己成長の継続と問題解決能力)
- 3に「**感動と思い出を作ること**」(生命の尊重と危機管理能力)



★三つの教育の根幹★

- 共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」。
- 響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い合わせたことがかえってくるそんな「響育」
- 驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。
この三つの柱、三つの教育の実現のためには、「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」が大切にあると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切になってくるのです。



★ゆりの樹幼稚園が考える教育の循環

「**自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感→自立**」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「自分が大好きで、自分が信じられる」教育です。

この教育は、子ども達が自ら選択、決定し、自己承認が出来る 日々の保育を通してその年齢に不可欠の子ども達の望ましい成長と発達を促す教育でもあります。子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、一つ自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。自分で自分を律する(セルフコントロールできる)ことが出来れば、人は切れません。自分で決めるためには、「**小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要**」です。

いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。この「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。



★ゆりの樹幼稚園が考える三つの友達とのかかわり

- 1、「**私は私**」という自分の存在の確立
- 2、「**私とあなた**」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、**皆の中の自分**という存在

『心の教育とは』ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事ではないかと考えています。「片付けることが大切」という事を教える事が教育ではなく、片付けると気持ちが良いという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。なぜそうしたほうが良いのかを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。「なぜ」を教えないルールだけを守る人間になるのではないか。

『心』を教えないで社会のルールだけを教えると、その人は間違った努力をしてしまうことになります。もし、子どもが、その事に気付かないで、ただ親や他人の承認を得ようとして言いつけを守るすれば、その意味がわかっているのではなく、怒られるのが嫌だからしているのであって、理解しているのではないのです。

又、自分のことをわかつてくれた時の、ほっとした体験をした時の気持ちが子どもの心を育てます、気持ちよいという心、感情、心地良さを育てる事によって心が育つのです。全ての教育は子どもが自分の心に躍動するものがなければなりません。そしてその気持ちをわかつてくれた人の言う事を人は



きくのです。大人でも自分の気持ちをわからってくれない人の言うことを聞けますか？子どもはもっと敏感です。

そして、子どもが自分の気持ちに素直になり、かかわりの中心になった時に初めて心の教育が出来てくるのではないでしょうか。先生や友達と心をひとつにすると気持ちがいいと感じること、子どもは親、教師や友達とかかわることで自分の存在を確認していきます。

園や家庭生活を通して、子どもは自分の心に修正を加えながら、「最後まであきらめない心、苦しくても悲しくても、つらくてもそれを乗り越えていく心」を会得し、「自分が自分であるというアイデンティティーを確立」していくのです。それが『育てる』つまりは『自ら育つ』ということなのです。

このことの理解なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。このような親、教師、子どもの関係が築けたときその集団はきっと成長していくのでしょう。

最初から立派な人間はいないように最初から、一人前の親も、教師もいません。でも、一人一人の力は小さくとも、一人一人は自信がなくても、皆で力をあわせればきっと素晴らしい事ができます。一人一人が助け合えば、勇気が湧いてきます。今の自分は未熟に思えても、その時、その時を精一杯生きて努力をしていれば、その時々ですべての人が「100点満点」なのです。それは、子ども達も、親も、教師も皆同じです。皆が、自分を認められる、そんな育ちをしてほしいと願っています。

だから恐れることはは何もありません。行動を恐れ、結果を恐れ、何もしないのは、停滞退化でしかないと私は考えます。人が、呼吸をし、生きているということは、何の成長、進歩もない人生を過ごす為ではありません。そして、最終的に、子ども達が、自分が人の評価ではない、自分の中のもう一人の自分が自分を認めてあげる日、真の自立の日が迎えられる日まで頑張りましょう。そんな幼稚園を共に作りましょう。

この実現のために教育理念があり教育目標があります。この実現のために、どうぞ、手を取り合っていきましょう。かわいい子ども達の為に。次世代のために。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。

前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学べばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一步を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけていきましょう。すべては、プラス思考です。

又、感動と思い出は誰も作ってくれるものではありません、自分の手で作るのです。感動と思い出は、子ども達に、教師に、保護者にその人がそれぞれの立場で、精一杯頑張った分だけ平等にかえってきます。

今年一年、子ども達、保護者の方、職員と共に歩き、驚き、響きあいながら、共に育ちたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

全託

すべての問題を解決する能力はすべて自分自身が持っている。その事を信じて、自分の持てるすべての資質を信じきって、すべてを自分自身にたくしてみよう。
すべてはそこから始まる。

